

経済学入門

第1回宿題

回答例

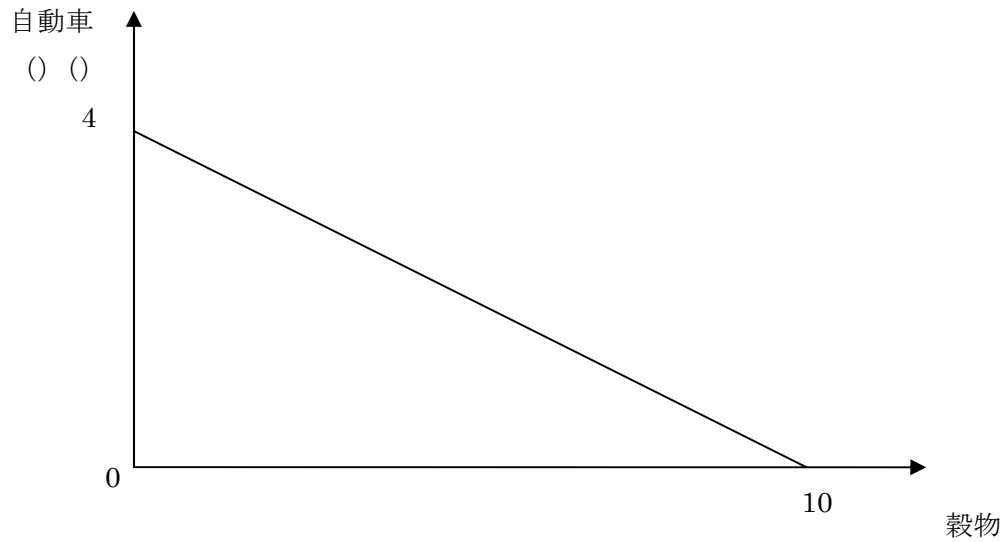
第一問 P84 問3

a)

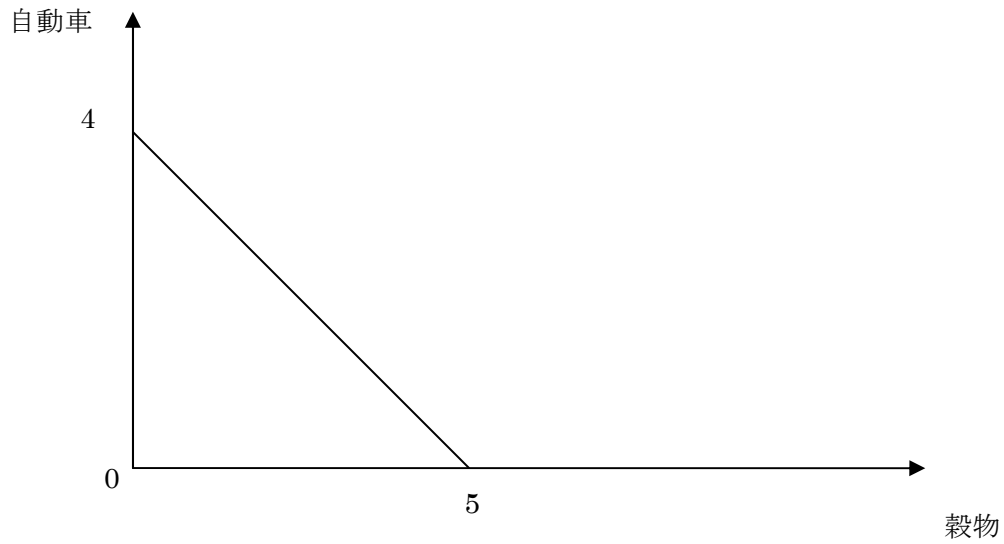
アメリカと日本の生産機会				
	1台の自動車と1トンの穀物を作るのに必要な時間(年)		1年間に生産できる自動車と穀物の量(億台、億トン)	
	自動車	穀物	自動車	穀物
アメリカ	0.25	0.1	4	10
日本	0.25	0.2	4	5

b)

アメリカ



日本



c)

自動車と穀物の機会費用		
機会費用		
	自動車 1 台	穀物 1 トン
アメリカ	2.5	0.4
日本	1.25	0.8

d)

絶対優位 自動車・・・日本・アメリカ（両国）
穀物・・・アメリカ

e)

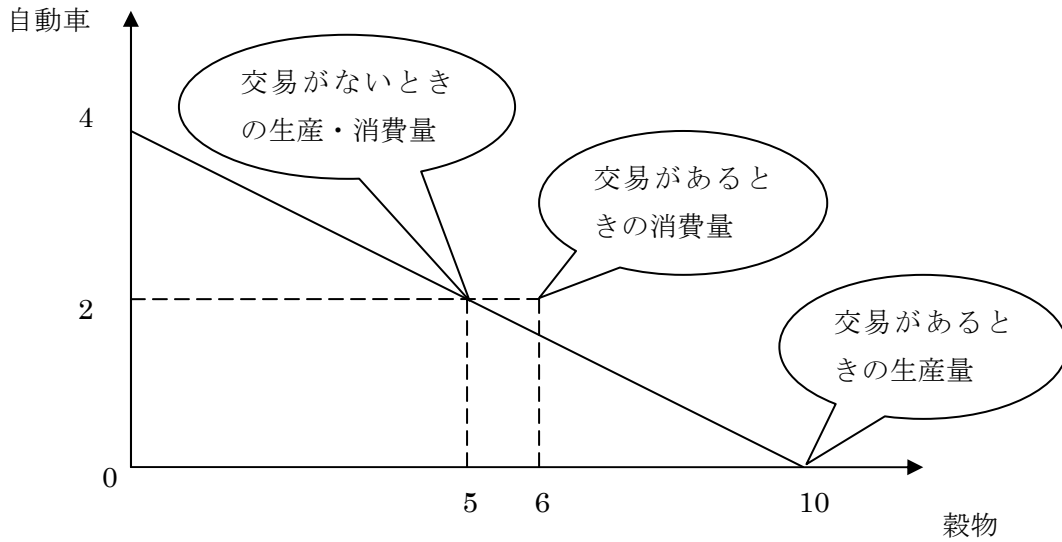
比較優位 自動車・・・日本
穀物・・・アメリカ

f)

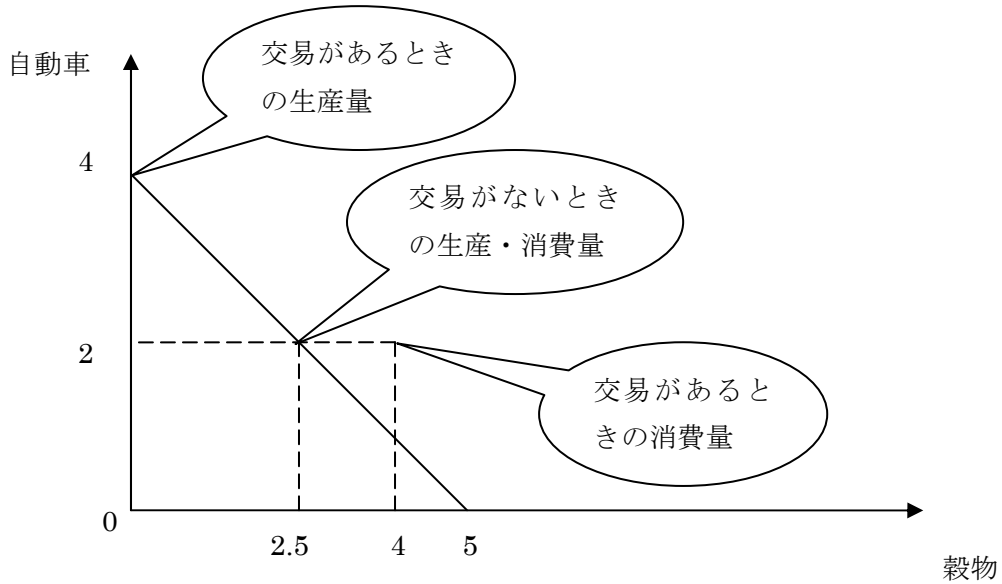
貿易がない場合のそれぞれの生産量		
	自動車（億台）	穀物（億トン）
アメリカ	2	5
日本	2	2.5

g)

アメリカ



日本



例えば・・・

アメリカが穀物に比較優位を持つので、穀物を 10 億トン生産する。一方日本は自動車に比較優位を持つので自動車を 4 億台生産する。ここで、アメリカが穀物を 4 億トン日本に輸出するかわりに日本から自動車を 2 億台輸入したとする。すると、交易しなかったときに比べ、消費量が増加していることがわかる。一方日本においても、自動車 2 億台と引き換

えに穀物を 4 億トンもらうことで、消費が増加している。これによって、両国とも取引をしないときに比べ消費が増加し、豊かになっていることがわかる。

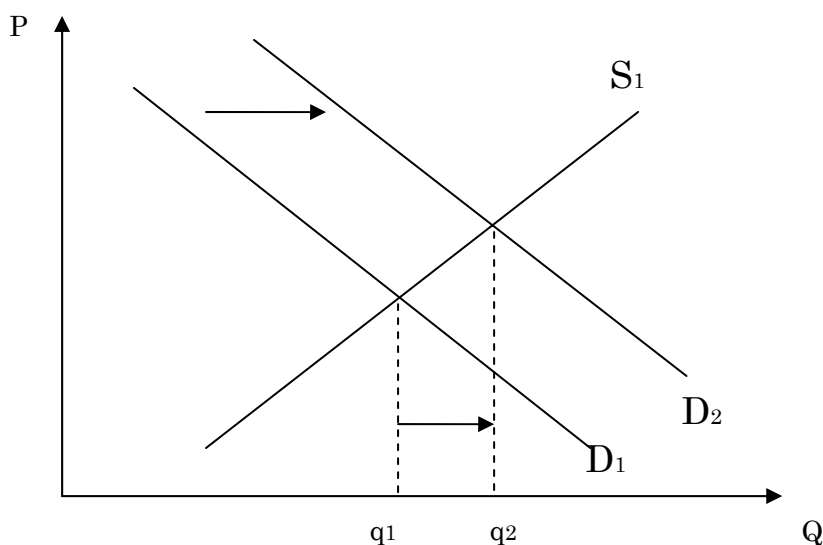
第二問 P85 問6

大学教授は、両方において絶対優位を持っている。しかし、ここで、比較優位を考えてみると、おそらく教授は本を書くことに、また学生のほうはコピーをとることに比較優位があると考えられる。これはすなわちコピーをとる時間を使って大学教授は本を書いて高所得を得ることができるが、学生はコンビニのアルバイトなど、あまり高い所得を得ることのできない職につくしかないと考えることができる。これはすなわちコピーをとることの機会費用が大学教授のほうが学生よりも高いことを意味する。そこで、学生にコピーをとらせ、教授がその分、自分の機会費用よりも低く学生の機会費用よりは高いバイト料を支払うことで、大学教授も学生もハッピーになれる。よって、大学教授がやっていることは理に適っていると考えられる。

(教授はコピーをとらずに学生に頼むことで、コピーに割く時間を減らして本を書く時間を増やすことができる。それによって、教授の収入が増加する。その収入のいくらかを学生のバイト料(コンビニのバイト料よりも高い)にすれば、学生も収入が増加する。よって両者が豊かになる。)

参考・・・タイガーウッズの話 (p 80)

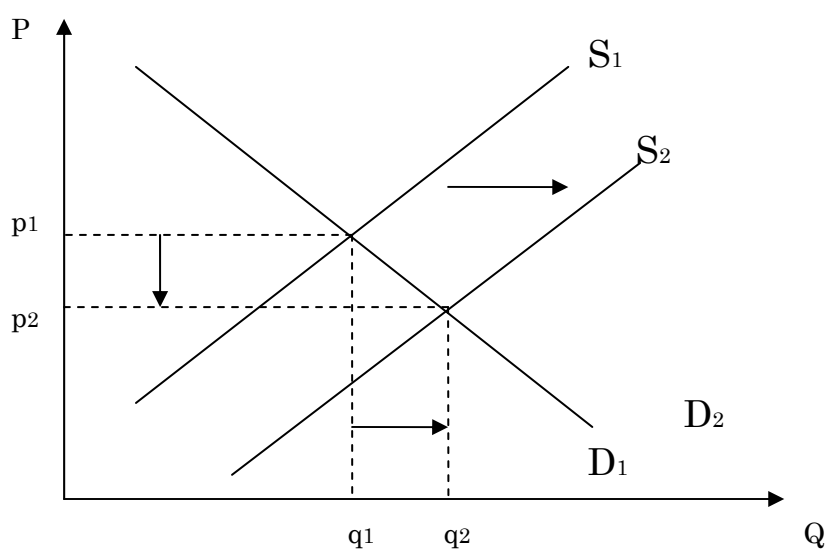
第三問 P121 問2



ノートの需要が増加すると、需要曲線が D_1 から D_2 にシフトする。このとき、需要量が増加し、供給量は増加する。 $(q_1$ から $q_2)$ によって「ノートの需要が増大すると、ノートの需要量は増大するが、ノートの供給量は変化しない」は間違いである。ノートの需要が増加したことで、供給曲線は変化していない。よって、「供給」ならば正しい。※「供給」が変化するのは、供給曲線のシフトを意味する。

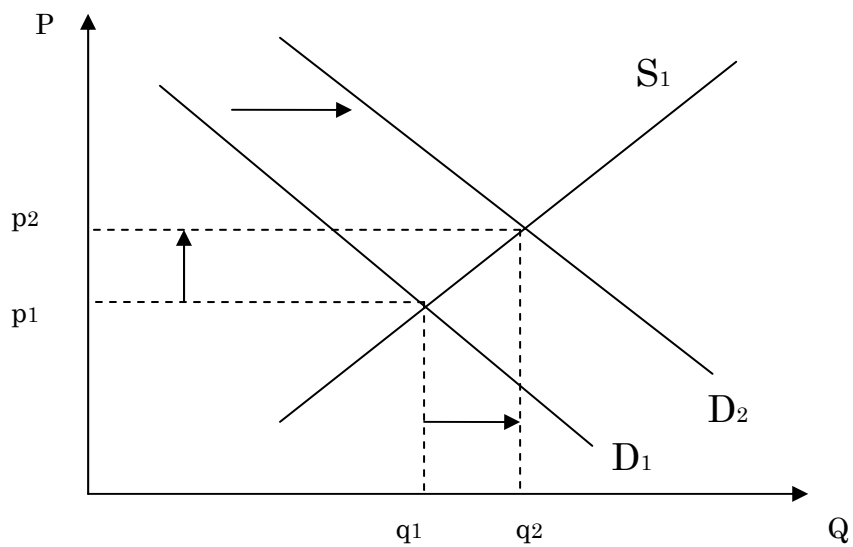
第四問 P121 問4

1. コンピューター市場



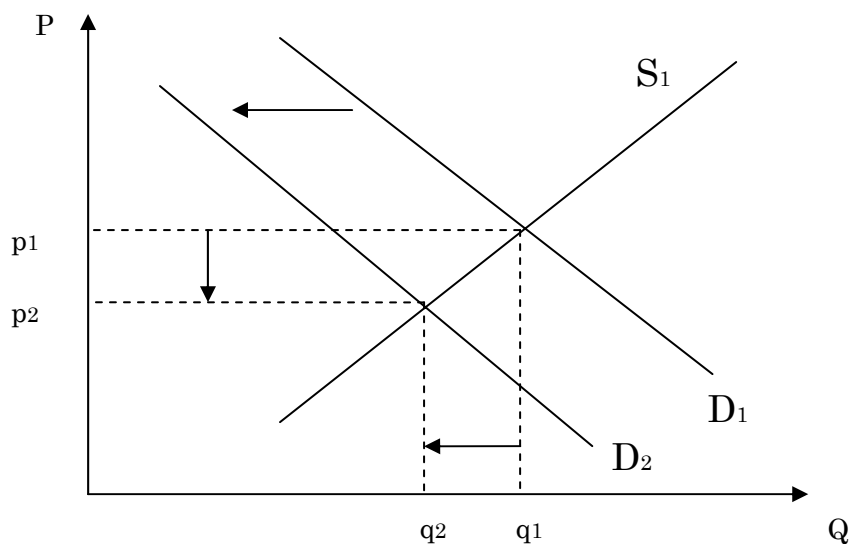
- ① コンピューターチップが安くなり、コストが削減できたことで、供給曲線が右にシフトする。 $(S_1$ から $S_2)$ すると価格は p_2 に下落する。

2. コンピューターソフトウェア市場



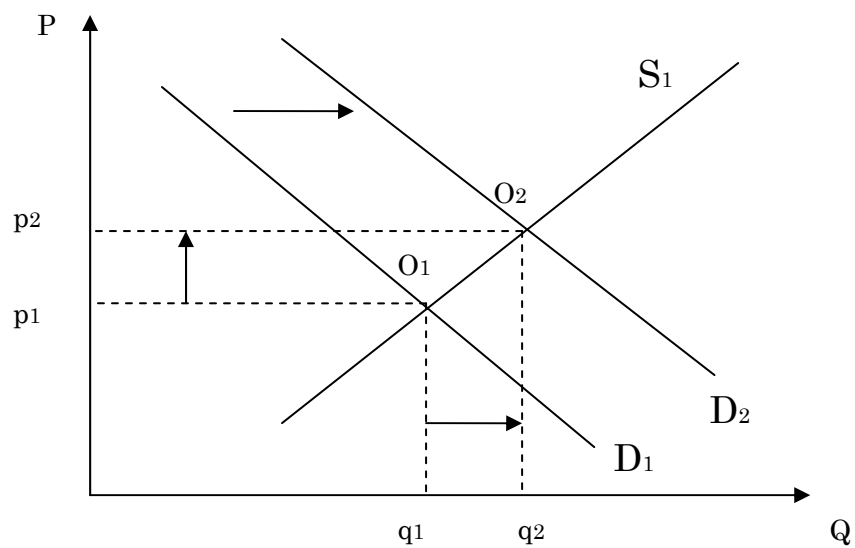
- ② コンピュータとソフトウェアは補完財であると考えられるので、コンピューターの増加に伴い、ソフトの需要が高まる。よって需要曲線が右にシフトして、ソフトの価格が p_2 に上昇する。

3. タイプライター市場



- ③ 一方、タイプライターはコンピューターの代替財であると考えられるため、タイプライター市場では、コンピューターの影響で、タイプライターの需要が低下し、需要曲線が左にシフトする。(D1 から D2) その結果、価格が p_2 に下落する。

第五問 P124 問 12



「多くにエグゼクティブは・・・喜びに舞い上がっていた」ここまでは正しい。
このシャンパン価格が急激に上昇したのは、シャンパンに対する人々の需要が増加したからであり、これは需要曲線が右にシフトすることを意味する。よって均衡 O_1 から新しい均

衡 O_2 に均衡が移る。

「しかし・・・懸念していた」ここが間違い。

確かに価格が p_1 のままであれば、需要曲線が D_2 にシフトしたあと、需要量は増加し、その結果超過需要に対応する形で価格は急騰していく。しかしながらこれは需要曲線 D_2 上の動きであり、需要曲線 D_2 に沿って需要量は減少していく。しかしながら、需要の減少は起こらないので、価格が下落することはない。「需要量」と「需要」の変化、あるいは需要曲線上の動きと需要曲線のシフト、を混同した典型的な誤謬である。